



公募制推薦入試  
「基礎学力試験対策講座」



入試相談



模擬授業（英文学科）



学科・専攻相談  
(交流文化学部)

## 第2回オープンキャンパスに 過去最高の 4,791人が参加



7月30、31日に第2回オープンキャンパスを開催しました。30度を超える真夏日にもかかわらず、長久手・星が丘両キャンパスには多くの人が訪れました。来場者数は両日合わせて4,791人。昨年は159人上回る過去最高の来場者を記録しました（保護者など付き添い者は除く）。

「全体説明会」では大型スクリーンを使い、大学の学びや入試方法などについて、担当スタッフが詳しく説明。満席の教室内では、熱心にメモをとりながら説明を聞く高校生の姿が多く見られ、会場は熱気とやる気に包まれていました。

「模擬授業」は第2回オープンキャンパスだけでおこなわれる毎年人気の企画。興味のある学部・学科の模擬授業を自由に受講できる貴重な機会とあつて、各授業は毎回大盛況でした。参加した高校生からは「大学の授業って想像以上におもしろい!」「志望する学部のイメージが明確になりました」などの前向きな声が聞かれました。

学科（専攻）相談をはじめ、入試、学生生活、就職や留学などについて

の各種相談コーナーでは、気になる疑問や不安に思っていることを教員や担当スタッフが直接質問でき、参加者たちは大学についての理解をさらに深めていたようです。

また、公募制推薦入試の「基礎学力試験（国語・英語対策講座）」を両キャンパスで今年も実施。本学教員が、入試の攻略ポイントや効果的な受験勉強の方法などをわかりやすく解説しました。

その他、在学生スタッフが学内施設を案内する「キャンパスツアー」や、各学部・学科による趣向を凝らした特別企画も好評でした。メディア・プロデュース学部・都市環境デザインコースは、学生が計画から施工までをすべて担当し、「五十嵐淳展状態の構築」愛知巡回展を開催。人間情報学部は、ドバイ・シンガポール・タイを使い、バーチャルドライブを体験してもらうイベントを実施しました。

様々な企画内容で、大学の学びを実際に体験できた2日間。来場したみなさんは、充実した一日を過ごし夏のオープンキャンパスを満喫していたようです。

# CAMPUS キャンパストピックス TOPICS

## 養護教諭の 遠藤清美先生が 文部科学大臣より表彰



表彰式では佐賀県知事から、現代の子どもたちを取り巻く健康についてのお話があり、時代と共に変化していく養護教諭の職務に対するの激励を受けた。

愛知淑徳中学校 養護教諭の遠藤清美先生が、文部科学省の学校保健功労者として、8月に佐賀県で開催された平成23年度全国養護教諭研究大会で表彰されました。

学校保健功労者は、今年で養護教諭制度が70周年を迎えたのを記念して、全国の公立小中学校と私立学校から勤続30年以上の養護教諭256人が選ばれました。遠藤先生は愛知私学の中では最も長く勤めておられます。

「養護教諭の仕事は、数字で表すことができない面もあり、理解されにくいこととありますが、長く勤務できたのは、毎年、新入生とどんな出会いができるかという期待と、生徒たちが元気で卒業する姿を見る喜びがあったからです。健康で過ごしてほしい、自分のことを好きになってほしいとの思いを胸に勤めてきました。生徒たちに恵まれ、教職員の方々の有形無形の支えや励ましのおかげで今日があることを実感し、感謝申し上げます」と遠藤先生。今後も長く生徒たちを見守っていただきたいと思っています。

## 現代社会学会主催 「沖縄・島唄を聴く夕べ」



「沖縄・島唄を聴く夕べ」は、現代社会学会主催のイベントで、7月15日、長久手キャンパス・シニアターで開かれました。出演は、石垣島からお招きした「島仲久・ENJOY倶楽部」。

「島仲久・ENJOY倶楽部」は、NHK沖縄「あたらしい沖縄のうた」で10年にわたって紹介され、歌い継がれてきた「黒島ラブラブ」の作詞・作曲者です。

参加した学生は、「一緒に踊ったり、歌ったりすることで、とても元気に、笑顔になりました」「会場が一つになった感じがして、すごく楽しかった」などの感想を寄せてくれました。島唄を通して、沖縄文化の一端に触れることができたイベントとなりました。

## スポーツ・健康医科学科 春のスポーツ大会開催



フットサル



5月14日、スポーツ・健康医科学科 春のスポーツ大会を開催しました。スポーツ大会は昨年春と秋の年2回行い、今回で3回目。恒例行事となりつつあります。

健康医科学科の学生には、自身がスポーツ大会に参加して楽しむだけでなく、楽しく円滑にスポーツ大会を準備・運営実施できる能力を培ってもらいたいと考えています。

競技はバレーボールとフットサルを、長久手キャンパスのアリーナと多目的運動場を使って行いました。チームは「健康科学基礎演習（基礎ゼミ）」のクラスで分かれ、10チームがリーグ戦、決勝トーナメントで熱い戦いを繰り広げました。実行委員による事前準備や当日の運営で、時間通りに無事全ての競技を行うことができました。



歓迎式でのあいさつ



# CAMPUS

## キャンパストピックス

# TOPICS



## オーストラリアで異文化体験

生徒19人が、7月24～31日の8日間、シンガポールを経由してシドニーに1泊、メルボルンに5泊しながらオーストラリアの異文化を体験してきました。

行く前に、学習会を7回行ってオーストラリアについての知識を深め、現地での行動を綿密に計画し、班別発表をするなどして、事前準備をしました。

シドニーではブルーマウンテンの大自然を肌で感じるとともに、市街を散策することで、オーストラリアの人々の暮らしを垣間見ることができました。

メルボルンではこのプログラムのメインである姉妹校のセントキャサリンス校と交流。生徒たちは同校の生徒の家庭でホームステイをし、授業を見学したり、参加したり、また同校生徒とサッカーの交流試合も行いました。なでしこジャパンのようにはいきませんでした、が、みんな楽しんでいました。

生徒たちは言葉の壁や文化が異なるために戸惑うこともありましたが、とても充実した時間を過ごすことができました。この研修を通して大きく成長したようでした。

これを機に生徒たちがさらに国際的な視野を広げ、また本校とセントキャサリンス校との交流が発展することを願っています。



展示会場



カンファレンスの様子



## メディアプロデュース学部 都市環境デザインコースの 展示会報告

「五十嵐淳展 状態の構築」  
愛知巡回展と講演会  
7/23～8/7  
都市環境デザインコース  
プレゼンテーションルーム

TAKASHI HATTORI 12  
DESIGN WORKS  
+カンファレンス  
5/31～6/16  
都市環境デザインコースミニギャラリー

東海圏の建築系研究室  
プロジェクト展 vol.2  
+ギャラリートーク  
5/10～26  
都市環境デザインコースミニギャラリー

都市環境デザインコースの授業では、プロの建築家の展示会を誘致し、学生が会場計画を行います。今回は、北海道佐呂間町を拠点に国内外から注目される建築家、五十嵐淳氏とのコラボレーションで、学外一般にも広く告知され大々的に開催されました。

オープンに至るまでの約3か月間、学生たちは「ご本人の解説のもと北海道の実作を巡る建築研修を受け、五十嵐氏の建築空間をリサーチし、コンペ形式で会場案を戦わせ、職人より直接指導を受け会場施工を行いました。」

展示作品である縮尺10分の1の

ミラノを拠点に活躍するデザイナー、服部高志氏の個展を開催しました。服部氏は、家具、時計・アクセサリー・キャンドルなどのオブジェクトデザイン、パブリッシングやスペースデザイン、商品パッケージやグラフィック作品など、多様なデザインを手掛けており、世界最大の国際家具見本市であるミラノサローネで「YOUNG & DESIGN AWARD」を受賞、若手デザイナートップ20に選出されるなど、大変高い評価を得ているデザイナーです。

東海圏の建築系研究室によるプロジェクト展第二弾は、本コース清水裕二研究室による「キッズデザイン2010」「中川運河再生計画」と、大同大学宇野享研究室による「名古屋港ガーデンふ頭を考える学生提案競技」を展示しました。

「キッズデザイン」は、身近な素材である段ボールを用いた「だん



清水裕二研究室(本学)

巨大木製模型の組立、展示会の宣伝活動と、展示会運営をゼロから手掛け、空間をつくり出す楽しさを実感しました。7月30日には、学生自ら五十嵐氏を会場案内し、幸いにも好感触のお言葉をいただくことができました。

また、「ローカルな必然性」と題した講演会では、五十嵐氏自身から地域に根ざした建築のあり方を説明いただき、その土地の気候風土と向き合った「抛り所としての建築」について深く考える時間となりました。五十嵐氏の建

本展では、服部氏の12のプロジェクトの実物を展示する貴重な機会となりました。

6月6日には一時帰国中の服部氏を講師としてお招きしカンファレンスを開催しました。デザイン大国イタリアでの職人とのコラボレーションの話を中心に、伝統を重んじ



ステーションリーデザイン

「どらいぶ」の提案、「中川運河再生計画」は、運河沿いにある倉庫のリノベーション、遊歩道や桜並木の構想などを提案しました。

名古屋港ガーデンふ頭

の提案は、潮の満ち引きにより変化する潟の造成によって、海と陸の緩衝空間をつくるというユニークなものです。どちらの研究室も、学外発表の機会に積極的で、その姿勢は本コースの学生にも刺激のあるものでした。

また、5月19日には宇野享先生を講師に招き講演会を開催。宇野先生は8号棟の設計を行ったもののメンバーで、近作以外にも、8号棟の設計秘話など興味深いお話を伺うことができました。

つつも新たな作品を生み出すことに積極的なイタリアデザイン界の様子や、試作品製作の日本とイタリアの差異などを興味深く伺いました。また、新ブランド立ち上げなど、フリーランスとして活躍する服部氏の活動の一端をご紹介いただきました。

五十嵐氏  
講演会会場





## 英語漬けの3日間 イングリッシュセミナー開催



8月20、22日、木曾福島で恒例のイングリッシュセミナーを行ないました。中2から高2までの生徒49人が、英語のコミュニケーション能力向上を目的とし、英語ばかりの2泊3日を経験しました。

到着した瞬間から英語で会話がスタート。自己紹介から始まり、グループネームを発表。1分間でどれだけ英文を覚えて話せるか、英語劇を創作するなど様々なプログラムがありました。その合間にアメリカ文化に触れる目的で様々なゲームやダンスパーティー、カーニバルなどで、頭だけではなく体もたくさん使いました。初めはなかなか自分から話せなかった生徒が、1日目が終わるころには、別人のように英語を楽しんでいました。特に力を入れていたのが英語劇です。内容を自分たちで一から考え、台詞を暗記、稽古、小道具もそれぞれに工夫して作っていました。

最後にスタッフが各プログラムの優秀者を表彰した後、全員に修了証が渡され、全員で記念撮影を行いました。帰る時にはスタッフとの別れに涙を流す生徒もあり、イングリッシュセミナーの充実した内容がうかがわれました。

## 2011愛知県 私立中学校進学フェア



夏の恒例行事となった「愛知県私立中学校進学フェア」は今年で12回目、本校を含む県内の私立中学校19校が参加して、7月30、31日の2日間、松坂屋南館で行われました。中学受験に対する世間の関心は依然として高く、初日の入場者は延べ4529人と昨年を大きく上回りました。長引く不況の影響か2日間の合計では9185人、昨年比98%となりましたが、各校のブースには入試や校風について熱心に相談する保護者や受験生がひっきりなしに訪れ、2日間とも会場全体が熱気に包まれていました。1階のオルガン広場でのクラブ

によるステージ発表は残念ながら今年はありませんでしたが、8階会場の外には各校の制服が並べられ、熱心に見入る親子の姿が数多く見られました。そのすぐ脇では、各校が工夫を凝らした学校紹介の映像が大きなモニターテレビで流されていて、個別相談会とあわせて私立中学校を知っていたくよい機会になりました。

受験を控えた6年生ばかりでなく、5年生以下の児童と保護者の方の参加も多く、本校に関しては、完成を迎えた完全中高一貫体制のカリキュラムに対する期待や、カフエリア等校内の施設についての質問等が多く聞かれました。なお、松坂屋会場は本年度限りとなり、来年度からは場所を名駅の「ウィング愛知」に移して開催される予定です。

## 2010年度 留学生別科修了式



2010年度留学生別科修了式が5月20日に国際交流会館(アイハウス)で行われました。11人の修了生が本学での留学生活の思い出を胸に式に臨み、島田学長からそれぞれに修了証書が授与されました。

その後、修了生を代表し、オックスフォードブルックス大学(イギリス)の学生でポランド出身のSKANKLEWON Kabanana Noie(クシャズキエビチ カタジナ ソフィア)さんが、9か月間の留学生活を支えてくれた別科教員、友人、国際交流センタースタッフへの謝辞を日本語で述べました。

島田学長からは、日本の誇で「袖触れ合うも他生の縁」と言うが、本学で共に学んだクラスメイトや、日本で経験した様々な出会いを大切に、帰国後も日本と母国の友好の架け橋になってほしいと、修了生の今後の活躍に期待を込め、お祝いの言葉が贈られました。

修了式後は記念撮影とパーティーが行われ、修了生は教員やクラスメイトたちと楽しい出話を花を咲かせていました。



## 交流文化学会主催で 「地球のステージ2」開催

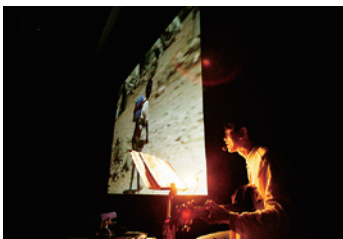


現役医師である桑山紀彦氏が、学生時代から現在までに訪れた世界の紛争・災害・貧困の地の子どもたちに出会った様子をオリジナルの音楽と映像で伝える「地球のステージ」(1・5)。交流文化学会では今年1月に続き、6月24日に「地球のステージ2」を開催しました。

今回は桑山氏の病院がある地域(宮城県名取市)が3月11日の東日本大震災で甚大な被害を受けたことにより、その映像とお話に加えられ、本学部だけでなく

他学部の学生、近隣地域の方々や他大学の学生など400人近くが来場し、それぞれが心を動かされ、何かしら決意をしたのではないでしょう。

学生からはこんな感想が寄せられました。「自分が知らない世界に衝撃を受けました。自分達が普段生活していることが、いかに幸せかということを感じました」「テレビなどで貧困に苦しんでいる、病気に苦しんでいる、病気になる他国の人々を見て、自分は悲しんだりして同情することしかできなかった。こんな自分でも何かできることはないかなって、ずっと思っていたので、今日、公演を観て、本当によかったです」



## 1年生が高山で 「思索と対話の春合宿」



4月10、12日の3日間、岐阜県高山市荘川で「思索と対話の春合宿」を行いました。日常と全く違う環境の中で、高校生になった自分をじっくり見つめ直し、これからの自分を考えることが目的でした。

1日目。まず最初に「からだからこころへ」で自分の体に意識を向けました。日常生活の中では自分の体と対話することはなかなかないと思います。リラックスしている

生徒が多いようでした。夜の「卒業生との対話の時間」では大学生9人が参加、中高時代の経験や進路選択、大学生活などについて話してくれました。先輩たちの話は心に響いたようでした。2日目の午後は頂に雪の残る山々を遠くに見ながらのハイキング。名古屋とは異なる景色にリフレッシュすることができました。

2人1組になって「対話」する企画では、話題を考えながら複数の相手と6分間ずつ話をしました。初めての相手との対話もあり「緊張する」との声も聞かれましたが、「相手を知ろう」という気持ちを感じられる時間となりました。

3日間の合宿で「思索と対話のノート」にこれまでの15年の人生の振り返りとこれからの15年の展望を記しました。この時の気持ちや忘れずに、目標を持つて高校生生活を送ってほしいと思います。







# CAMPUS

キャンパストピックス

# TOPICS

## オープンスクールに 2,500人超が来校



今年度のオープンスクールも、2,500人を超える参加者の中で盛大に行われました。

各クラブ、教科による



淑徳生に指導を受けて体験している娘を温かく見守るお母さん、子どもと一緒に問題を考えているお父さんの姿があちこちで見受けられ、参加者の満足度も高かったようです。

クラブ体験ミニ体験授業がグラウンド・校舎で、同時並行式に全体会が大アリーナで2回行われました。「淑徳生に聞いてみよう」のコーナーや個別相談にも熱心な保護者が足を運び生徒、教員の話に耳を傾けていました。会場いたるところにいる中3生徒のお手伝いも気持ちよく行われ、どの会場も熱気と笑顔にあふれていました。



## 五日で 泊馬、梅池へ 夏山登りに

8月1～5日の4泊5日、恒例の夏山登山を実施しました。今年は白馬大雪渓を登り、白馬岳山頂、白馬大池を経て梅池に降りる、一般にもよく知られたコースです。

アイゼンをつけての雪渓歩き、山頂でのお花畑観察や雪渓上での雪合戦など楽しみも多く、中1から高3まで計35人の参加者は大自然を満喫していました。雨が心配さ

れる空模様が続く、絶景を楽しむ機会は少なかったのですが、曇天の時こそ姿を見せる雷鳥が幾組も目を楽しませてくれ、子連れの親鳥も観察できました。

山小屋では限られたスペースを一般登山客と共用するため、マナーや心遣いが自然に培われます。縦割りで編成される生活班の中で、学年を超えた結びつきや気遣いが生まれ、最終日、6年連続参加を果たした高3生徒の挨拶には「同大いに感動していました。自然の中で心身を鍛え、学年を超えた連帯を育むこうした行事が、「淑徳魂」の根幹を支えてきたことを再確認しました。

## 2年生が高山で 二泊三日の林間研修



5月9～12日、中学最初の宿泊行事、林間研修を二つのグループに分けて行いました。今回はA班の初日以外は、全て雨となりました。



高山市一之宮町に到着し、入村式、位山のミニ登山のあと、各民宿に分かれての食体験では、岩魚のつかみ取り、うどん打ち、御幣餅作り、

バン作り、ビザ作り、おはぎ作りなど民宿ごとに行いました。夜はナイトハイイク、翌日は田植え体験です。田植えが初めての生徒も多く、貴重な経験になったようです。わずか1泊2日でしたが、一之宮久々野の方との交流は思い出深いものになりました。

2日目の午後からは淑友館に移行うーもいきました。南京一中は1クラス60人の13クラス。成績順にクラス分けされ、男女比は半々、高2から文理分けがあります。生徒はノートをとるほとんど取りませんが、これは生徒たちが教員との関連なやりとりの中で「ノート作り」ではなく「理解すること」を基本にしているからだと感じられました。

## 中国の姉妹校へ 教員派遣交流



中国の中学校は、日本の高等学校に相当

姉妹校である中国の南京一中への第1回教員派遣交流として、本校の加藤繁武先生、西尾俊哉先生、大野慎司先生が4月28日～5月8日の約10日間、同校の授業と行事に参加してきました。以下は西尾先生のレポート「近い隣国としての中国・南京・南京一中での授業を通して感じたこと」です。

「見学」もさることながら、淑徳の教員が南京の高校生に対して「授業を行う」ことで、「遠い異国」から「近い隣国」へと大きく印象が変わりました。

授業は合計8時間実施しました。日本と中国の言葉を通してのつながり（西尾）と、文化を通してのつながり（大野）、また2人で同時に

動し、クラス活動。雨のためキャンファイヤーは中止となり、食堂でのキャンドルサーピス。各クラスとも工夫を凝らした出し物が披露され、歌や踊りでクラスが一つになり、生徒たちは楽しそうでした。盛り上がった後は、「家族への手紙」。父母からの手紙を読んで、返事を書きました。

3日目のメインは、高山グループ見学。小京都とも呼ばれる長い歴史を持つ街をグループで見学しました。みたらし団子や牛串などの名物を食べる姿も見られ、十分に高山を満喫したようです。

2泊3日の林間研修で非日常生活を体験し、生徒たちは集団としていかに生活するかを学びました。ここで得たものを今後の日常生活、学校生活などに活かしてもらいたいと思います。

行うーもいきました。

南京一中は1クラス60人の13クラス。成績順にクラス分けされ、男女比は半々、高2から文理分けがあります。生徒はノートをとるほとんど取りませんが、これは生徒たちが教員との関連なやりとりの中で「ノート作り」ではなく「理解すること」を基本にしているからだと感じられました。

こうした雰囲気好意的に感じつつ、翻って「学ぶ意欲の低下」が世間的に問題にされている昨今の日本の教育について見つめ直す契機となりました。

教員として「学びとは何か」を問いつけるためには、遠くから眺める必要性もあるのだと改めて認識し、今後のさらなる交流を継続する必要を感じました。





長久手キャンパス

## 高校生が在學生と共に 大学の授業を受講 「愛知淑徳大学 体験講義2011」実施



星が丘キャンパス

当日は長久手・星が丘キャンパス合わせて177人もの高校生が来場。参

加した高校生は、緊張した面持ちの中、時おり笑顔を見せながら、大学ならではの専門性の高い講義や演習を熱心に聴講していました。

また、体験講義の空き時間を利用して「個別相談」コーナーを開設。学部学科（専攻）の特色や将来の進路などに関する相談に、担当の教職員がマンツーマンで親身なアドバイスを送っていました。

今回のイベントを通じ、一足早く大学の授業を体験した高校生は、各学部・学科（専攻）における学修の奥深さや面白さを肌で実感したことでしよう。



大学

## 健康医療科学部と 医療貢献学科と 愛知淑徳大学 クリニックが、 「マナビゲート2011」に出展

子どもたちが大学の学びのおもしろさを体感できるイベント「マナビゲート2011」が、8月20、21日、東京国際フォーラムで開催されました。子どもたちの興

味の幅を広げるきっかけになればと、本学もブースを出展。健康医療科学部医療貢献学科（言語聴覚学専攻、視覚科学専攻）と愛知淑徳大学クリニックが協力して、「超ふしぎ!?みるきく世界」と題したプログラムを実施しました。

今回の催しに参加したのは、言語聴覚学専攻の井脇貴子先生、視覚科学専攻の川瀬芳克先生、医療福祉研究科の大学院生、愛知淑徳大学クリニックのスタッフ（言語聴覚士、視能訓練士）。さまざまな体験企画を用意し、「きこえとことば



大学

## 2学部合同の 学生作品展 「めでいふえす」開催



大学

メディアプロデュース学部と現代社会学部の学生による学生作品展「めでいふえす」を5月18日（土）アネックス内アトリエ周辺で開催しました。

両学部では、発想力や構成力を鍛えるための様々な実習授業が用意されています。「めでいふえす」は、こうした授業で

の成果を授業以外の場で発表する場をつくりたいとの思いから実現しました。

初日に行われた上映座談会では、各授業から選ばれた映像作品や学生による自主制作作品を上映すると共に、本学非常勤講師で映画監督の二尾直樹氏や同じく本学非常勤講師で映像作家の萩原健一氏をゲストスピーカーとしてお招きし、講評をいただきました。普段の授業とは異なる観点から鋭く斬り込まれるコメントと、映像制作を志す学生へのあたたかい激励の言葉に、

## 野村友香さんが なぎなたで国体出場



大学

からなぎなたを始めた野村さんは、大学入学後、週5日の

育大会のなぎなた成年女子の部の愛知県代表として出場しました。

メディアプロデュース学部2年の野村友香さんが、10月8、9、10日に山口県で開催された第66回国民体育大会のなぎ

大変な練習量をこなし、今夏の県選考会で3位となり、見事、初の国体代表に選出されました。

「まだまだ技術的にも未熟。来年も愛知県代表として国体に出場し入賞できるよう、今後も精進します」

決して妥協することのない野村さんのますますの活躍が期待されます。



## チアリーディング部RANGERSが 中部チアリーディング選手権大会で 2年連続優勝



大学

た努力が、連覇という花を咲かせました。代表の渡邊玲子さん（現代社会学部3年）に、今回の大会を振り返ってもらいました。

「私達はチアリーディングの大会への出場を主に活動しています。大会では2分30秒の演技の中で完成

3連覇を達成できるよう、今後も応援してください。練習に励んでいきたいと思っています。今後も応援よろしく願っています。」

チアリーディング部RANGERSが6月25日に開催された「第16回中部チアリーディング選手権大会 大学の部」（港区稲永スポーツセンター）で、昨年に引き続き優勝しました。全国に通用するチームを目指し、約50人の部員が週5日の練習に励んできた努力が、連覇という花を咲かせました。代表の渡邊玲子さん（現代社会学部3年）に、今回の大会を振り返ってもらいました。

「私達はチアリーディングの大会への出場を主に活動しています。大会では2分30秒の演技の中で完成



度、技の難易度、表現力などを競います。

チアリーディングの魅力は、息の合ったダンスや、ダイナミックな空中技で、観ている方を魅了し、さらに元氣、勇気、笑顔を支えられたいです。